

彙報

教育學會例會

九月二十五日新入學生の歡迎會を開く。席上次の講演あり。

新しき村の視察談

小西博士

實業補習學校の施設に就いて

岡谷弘氏

岡谷氏の提出したる問題に就いて盛んなる討議ありき。

新著紹介

ルト 方法省察原理 文學士 出 隆 譯

本書はデカルトの哲學上の主著「方法叙説」「第一哲學の省察」
「哲學原理」の三書について、前二者の全部と「哲學原理」の第一
部（人間の認識の原理について）との翻譯であつて、續次刊行さる
可き「哲學名著叢書」の第一篇をなすものである。翻譯は悉く原著
から、即ち「方法叙説」は佛蘭西文に據り他の二著は羅典文に據つ
て譯せられてある。

近代の哲學に於けるデカルトの意義は改めて説くまでもない。
近代歐洲の哲學を貫く最も根強い流れの幾つかがデカルトに源を
發し、或は少くともデカルトに於て明確な形をとつたことは一般
に認めらるる所である。苟くも近代の哲學を理解しようとするも
のは必ずこの根源を探らなければならぬ。併しデカルトの哲學
の意義は、それが過古に於て歐洲の哲學思想の形成要素をなした
と云ふ歴史的な意義に盡きるものではない。その「メデイテーシヨ

ン」を読むものは、その人が深く根本にかへつて考へようとする
人である限り、彼自らの問題がそこに異常な透徹さと力強さを
以つて取扱はれてゐることを見るであらう。云ふまでもなく、意識
體験の自證的確實性を基礎としてその上にデカルト自身の進めて
行つた考察の全體について見れば、我々のそのままに受け容れ難
いものが少くないであらう。併しかかる假定はデカルト自身の、少
くとも一面の根本思想なり傾向なりの充分徹底せられなかつた結
果であるとも考へるのであつて、我々は必ずしもこれ等の假定
を共にすることなくして彼の哲學の根本精神を我々に於て生かし
得ると思ふ。それについて唯一例に過ぎないが、近時徹底的に内
省の上に哲學を組織しようとするフッサールの現象學的考察に著
しくデカルトに接近した所のあることなども興味のある事實だと思
ふ。とも角もデカルトは近代哲學の理解のために必ず潛らなけ
ればならぬ門である。歐洲哲學の根本的な理解に對する要求が著
しくなつたと云はるる現今のわが國の讀書界に於て、本書の如き
はまさに出づ可くして出でたものと云つていい。而して我々の親
しみにくい原著が語學に造詣の深い譯者の、充分な用意と努力と
によつて我々に近づけられたことは喜ばしいことである。

一のクラシックを邦語に移すことはいかなる場合でも容易なら
ぬ仕事である。いまこの出氏の翻譯はいかなる出来ばえを以てこ
の困難をきりぬけてゐるか。語學の力が薄いのと歴史的な知識に
乏しいために、自分はそれについて力ある意見を述べ得ない。た
ゞ讀過の際感じたままを述べれば、出氏の譯は原文の微細な語句
にまでも綿密な注意が拂はれて、それが柔軟性に富んだ譯筆によ